

遊休農地のシバ型草地化実証試験

岩間永子・小川慎吾¹⁾・高橋覚志²⁾・齊藤隆夫・合原義人

Demonstration test for the Fallow land to grasslands

Nagako IWAMA, Shingo OGAWA, Shatoshi TAKAHASHI, Takao SAITHO, Yoshito AIHARA

要 約

遊休農地の草地化を推進するため、センチピードグラス(シバ)の現地での栽培及び放牧実証試験をおこなった。18年6月に播種を行なった。播種量0.5kg/10aで3年目には被度76.5%となり、0.5kg/10aで十分に定着することが明らかになった。また、播種直後の半放牧の継続の有無はその後の被度には大きな影響がなかった。

水田と畑ではやや畑のほうが定着がよく、水田で極端に水はけの悪い所では定着しなかった。

キーワード：遊休農地放牧 草地化 センチピードグラス

緒 言

近年、黒毛和種繁殖牛による遊休農地放牧が増加している。しかし、野草利用での放牧では、生産量が年々減少するので、長期放牧するためには、草地化する必要がある。

そのため、小規模な繁殖和牛農家でも省力・低コストでの草地化が可能で、更に造成後も低コストで持続的な利用ができる低投入持続型草種(センチピードグラス)の栽培が国等で研究されており、農家への普及を図るため、現地での栽培及び放牧実証試験を行なう。

3) 試験区

両区とも蹄耕法による不耕起造成

(1) 播種量の違いによる試験

1kg/10a及び0.5kg/10a区の2区を設置

(2) 播種直後の管理方法

(1)の試験区を、さらに播種後そのまま放牧させる区(無禁牧区)と播種後2週間放牧を行なわない区(禁牧区)とに区分した。

結 果

本年度は5月から11月にかけて放牧を行なった。(表1)

材料および方法

1) 播種日

平成18年6月16日及び6月22日

6月16日に播種を行ったが、翌日に激しい夕立があり、畑が緩い傾斜地で種子が流された可能性があったため22日に追播を行った。

2) 圃場

当所で3年間野草地放牧を行なっていた。播種年は水田で5月23日から、畑で4月25日から放牧を行った。

表1. 放牧期間

放牧地	放牧面積	放牧期間	のべ放牧頭数
水田	1,362m ²	187日	374頭 (20.5.1~20.10.30)
畑	1,384m ²	155日	310頭 (20.5.8~20.11.11)

1) 茨城県畜産センター

2) 茨城県北家畜保健衛生所

播種量の違いによるセンチピードグラスの被度は、3年目になると水田の1kg/10a区の73%と、

0.5kg/10a区の76.5%とでほとんど差が見られなかった。

畑においては、1kg/10a区87.0%と、0.5kg/10a区75.0%で1kg区のほうが定着が良かったが、0.5kgでも70%以上あり、放牧するには問題ない被度まで広がった。

また、播種直後の管理方法の違いによる試験でも、水田での無禁牧区76.5%、禁牧区73.0%と差がほとんど見られなかった。畑では、無禁牧区76.5%、禁牧区85.5%で禁牧区のほうが定着が良かったが、無禁牧区でも70%以上あり、放牧するには問題ない被度まで広がった。

また、水田と畑ではやや畑のほうが定着がよく、水田でもよく水がしみ出ているコナギが繁茂しているような極端に水はけの悪い場所では定着しないところもあった。(表2・3)

参考文献

- 1) 山本 嘉人 センチピードグラス播種によるシバ型放牧草地の早期造成
- 2) 畜産の研究(2005) 59(1), p131-134

表2. 播種量と造成法の違いによる被度(%):水田(H20)

播種量	無禁牧	禁牧	平均
1.0kg/10a	77.0	69.0	73.0
0.5kg/10a	76.0	77.0	76.5
平均	76.5	73.0	74.8

表3. 播種量と造成法の違いによる被度(%):畑(H20)

播種量	無禁牧	禁牧	平均
1.0kg/10a	82.0	92.0	87.0
0.5kg/10a	71.0	79.0	75.0
平均	76.5	85.5	81.0

考 察

播種量の違いによる被度及び播種直後の管理方法の違いによるセンチピードグラスの被度は、造成3年目ではいずれも70%以上と高かった。よって0.5kgでも十分に定着することが明らかになった。

また、極端に水はけの悪い場所では、定着しないことがわかった。